

第五章 危険性認識、好きな場所の認識の分析

5-1 撮影写真の分類

5-1-1 危ない道の分類

危ない道の写真を表 5-1 のように分類した。分類方法は「3-4-1 撮影写真の分類」による。

危ない道の「主要素」は交差点が最も多く、危ない道写真全体の 43.1%を占める。その他の「主要素」の割合は同程度であり、それぞれ 20%前後を占めている。

距離は中景が最も多く、次いで近景が多くなっている。

視線は水平が多く、次いで俯瞰が多くなっている。

コメントでは、「信号がない」、「道が狭い」などの設備に関するコメントが最も多く、次いで「車がよく通る」、「車も自転車も多い」などの交通量の多さに関するコメント、「車が飛び出してくる」、「車が見えない」などの見通しの悪さに関するコメントが多くなっている。

図 5-1 に「主要素」別でコメント数を比較した。直線道路においては、交通量に関するコメントと設備に関するコメントが多かった。交差点では、見通しに関するコメントが最も多く、交通量に関するコメントも多かった。歩道では、設備に関するコメントが多かった。特定対象を撮影した写真では、路面・路肩に関するコメントやその他のコメントが多かった。

表 5-1 危ない道写真の分類

主 要 素	特定対象	116	20.1%
	歩道	102	17.6%
	交差点	249	43.1%
	直線道路	111	19.2%
	計	578	100.0%
距 離	近景	171	32.6%
	中景	300	57.3%
	遠景	53	10.1%
	計	524	100.0%
視 線	俯瞰	135	25.8%
	水平	339	64.7%
	仰観	50	9.5%
	計	524	100.0%
コ メ ン ト	交通量	106	20.9%
	見通し	103	20.3%
	路面・路肩	75	14.8%
	設備	140	27.6%
	ルール・マナー	42	8.3%
	その他	41	8.1%
	計	507	100.0%

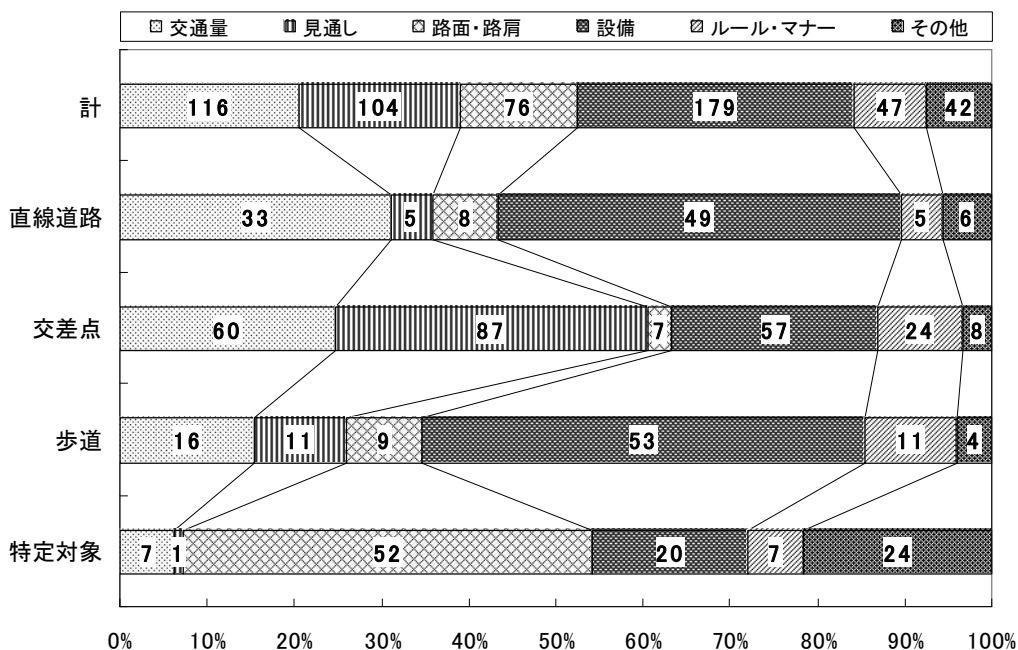


図 5-1 危ない道「主要素」別のコメント数比較

5-1-2 好きな道の分類

好きな道の写真を表 5-2 のように分類した。分類方法は「3-4-1 撮影写真の分類」による。

好きな道の「主要素」は建造物が最も多く、好きな道写真全体の 33.7%を占める。次いで景観、特定対象、景色となっている。

距離は中景が多く、近景と遠景の割合は同程度であった。

視線は水平が多く、俯瞰と仰観の割合は同程度であった。

コメントでは、「田んぼがきれい」、「眺めがよい」などの景色・景観に関するコメントが最も多く、次いで「日陰があって涼しい」、「座ることができる」などの通学における快適さに関するコメント、「春は桜が咲く」、「きれいな花」などの植物に関するコメント、「魚が時々泳いでいる」、「ここにいる白鳥とかが好き」などの動物に関するコメントとなっている。

図 5-2 に「主要素」別でコメント数を比較した。特定対象を撮影した写真では、動物や植物に関するコメントが多かった。景色を撮影した写真では、景色・景観に関するコメントが多かった。建造物を撮影した写真では、快適さに関するコメント、建物に関するコメント、安全に関するコメントが多かった。景観を撮影した写真では、景色・景観に関するコメント、遊び体験を伴うコメントが多かった。

表 5-2 好きな道写真の分類

主要素	景観	65	26.7%
	建造物	82	33.7%
	景色	47	19.3%
	特定対象	49	20.2%
	計	243	100.0%
距離	近景	63	25.9%
	中景	116	47.7%
	遠景	64	26.3%
	計	243	100.0%
視線	俯瞰	52	21.4%
	水平	137	56.4%
	仰観	54	22.2%
	計	243	100.0%
コメント	動物	28	13.5%
	植物	32	15.5%
	景色・景観	51	24.6%
	建物	26	12.6%
	遊び	16	7.7%
	安全	11	5.3%
	快適	34	16.4%
	その他	9	4.3%
	計	207	100.0%

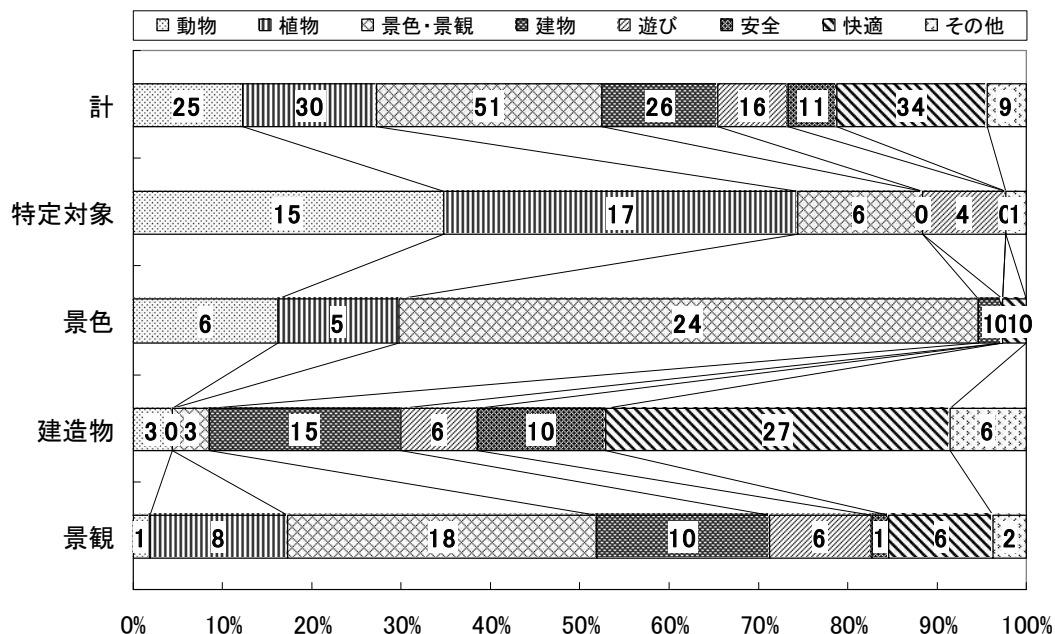


図 5-2 好きな道「主要素」別のコメント数比較

5-2 写真を用いた数量化Ⅲ類による撮影写真、サンプルの分析

5-2-1 危ない道の分析

「3-4-2 写真集約データを用いた数量化Ⅲ類による写真、サンプルの分析」に従い、数量化Ⅲ類を用いて危ない道写真全 524 枚の分析を行った。なお、カテゴリーは、「主要素」(4 項目)、距離 (3 項目)、視線の高さ (3 項目)、コメント (その他のコメントを除く 5 項目)、の 15 カテゴリーとした。

数量化Ⅲ類の結果の固有値、寄与率などを表 5-3 に示す。固有値が第 1 軸で 0.5 以上となる。累積寄与率が第 3 軸までで 40%を超えることから、第 1 軸から第 3 軸までを因子軸として採択した。

表 5-3 危ない道写真の数量化Ⅲ類結果の固有値、寄与率

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.5331	19.59%	19.59%	0.7302
第2軸	0.3956	14.54%	34.13%	0.6290
第3軸	0.2739	10.06%	44.19%	0.5233
第4軸	0.2483	9.12%	53.31%	0.4983

第 1 軸から第 3 軸までのカテゴリーウェイトは表 5-4 の通り。

表 5-4 各因子軸のカテゴリーウェイト (危ない道写真)

カテゴリー	第1軸	カテゴリー	第2軸	カテゴリー	第3軸
直線道路	-0.8752	見通し	-2.0918	歩道	-1.8576
仰観	-0.7321	遠景	-1.3101	設備	-0.7899
交通量	-0.6554	交差点	-1.1631	俯瞰	-0.5898
遠景	-0.6454	近景	-0.6582	近景	-0.5324
中景	-0.6277	ルール・マナー	-0.6040	中景	-0.3550
設備	-0.5739	水平	-0.4269	直線道路	-0.0428
水平	-0.5507	俯瞰	0.1188	水平	-0.0270
交差点	-0.4462	歩道	0.1945	見通し	-0.0225
歩道	-0.3156	交通量	0.3948	交差点	0.0063
見通し	-0.2613	中景	0.6066	交通量	0.4247
ルール・マナー	-0.1453	特定対象	0.7267	路面・路肩	0.4932
近景	1.3747	路面・路肩	0.8078	ルール・マナー	0.5317
俯瞰	1.7468	設備	0.8192	特定対象	1.1411
特定対象	1.8796	直線道路	1.8843	仰観	2.4639
路面・路肩	2.4025	仰観	2.5742	遠景	4.3764

第 1 軸では、負の項目に直線道路、仰観、交通量、遠景などの項目がある。直線道路での車を中心とした交通量に起因する危険が影響していると考えたため、負の項目は車の危険と解釈した。なお、見通しのよい直線道路で撮影した写真は仰観や遠景になることが多いため、仰観や遠景といったカテゴリーは軸の解釈にはそれほど影響しないと考えた。

正の項目には路面・路肩、特定対象、俯瞰、近景などの項目がある。路面や路肩、溝、橋など特定対象に起因する危険が影響していると考えたため、正の項目はその他の危険と解釈した。なお、路面・路肩で特定対象を撮影した写真は、対象が移動しないため近づいて撮影することが可能で、

俯瞰や近景になることが多い。そこで、俯瞰や近景といったカテゴリーは軸の解釈にはそれほど影響しないと考えた。

よって、第1軸は車の危険であるか、その他の危険であるかの軸である。これを『車の危険』軸と名付ける。

第2軸では、負の項目に見通し、遠景、交差点、近景などの項目がある。交差点での見通しの悪さに起因する車の飛び出しの危険が影響していると考えたため、負の項目は突発的危険と解釈した。なお、見通しの悪い交差点においては、調査時に事故にならないように配慮して遠くから撮影した写真と、見通しの悪いと感じた瞬間に近接して撮影した写真が多いため、遠景や近景が多い。そのため、遠景や近景といったカテゴリーは軸の解釈にはそれほど影響しないと考えた。

正の項目に仰観、直線道路、設備、路面・路肩などの項目がある。直線道路での設備、路面、路肩などに起因する影響していると考えた。これらの危険は、工事などで解消されない限り常に存在する危険であるため、正の項目は継続的危険と解釈した。なお、直線道路で撮影した写真や、設備の中でも信号を撮影した写真が多かったため、仰観になることが多い。そこで、仰観というカテゴリーは軸の解釈にはそれほど影響しないと考えた。

よって、第2軸は突発的危険であるか、継続的危険であるかの軸である。これを『突発的危険』軸と名付ける。

第3軸では、負の項目に歩道、俯瞰、近景などの項目があるため近接する危険と解釈し、正の項目に遠景や仰観などの項目があるため遠方の危険と解釈した。

よって第3軸は近接する危険であるか、遠方の危険であるかの軸である。これを『近接する危険』軸と名付ける。

各因子軸の解釈は表 5-5 の通り。

表 5-5 各因子軸の解釈(危ない道写真)

	第1軸	第2軸	第3軸
負の項目	車の危険	突発的危険	近接する危険
正の項目	その他の危険	継続的危険	遠方の危険
軸の名称	『車の危険』軸	『突発的危険』軸	『近接する危険』軸

この第1軸から第3軸までの各因子軸をx軸、y軸に用いて、「主要素」別の危ない道の各写真を二次元平面上に表した散布図を図 5-3、5-4 に示した。「主要素」別に表すことでどのようなものにどのような危険を感じているかが把握できるためである。

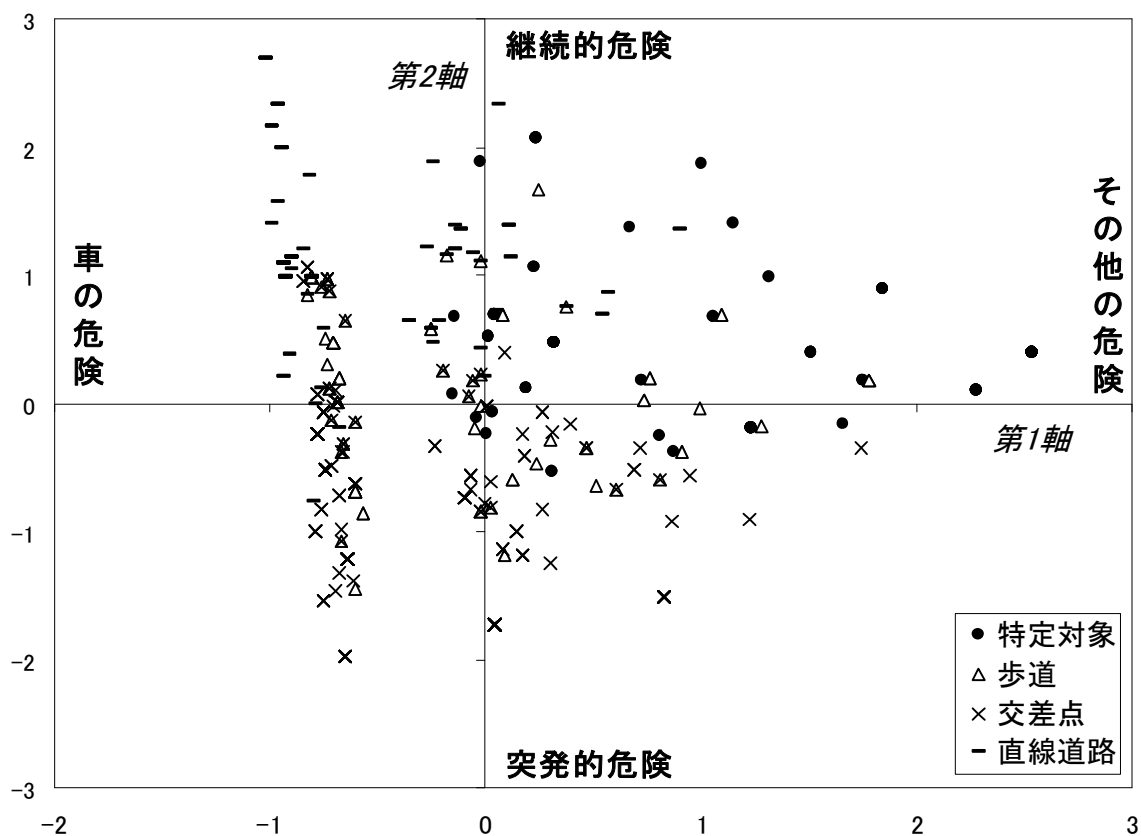


図 5-3 危ない道写真の散布図(第1軸×第2軸)

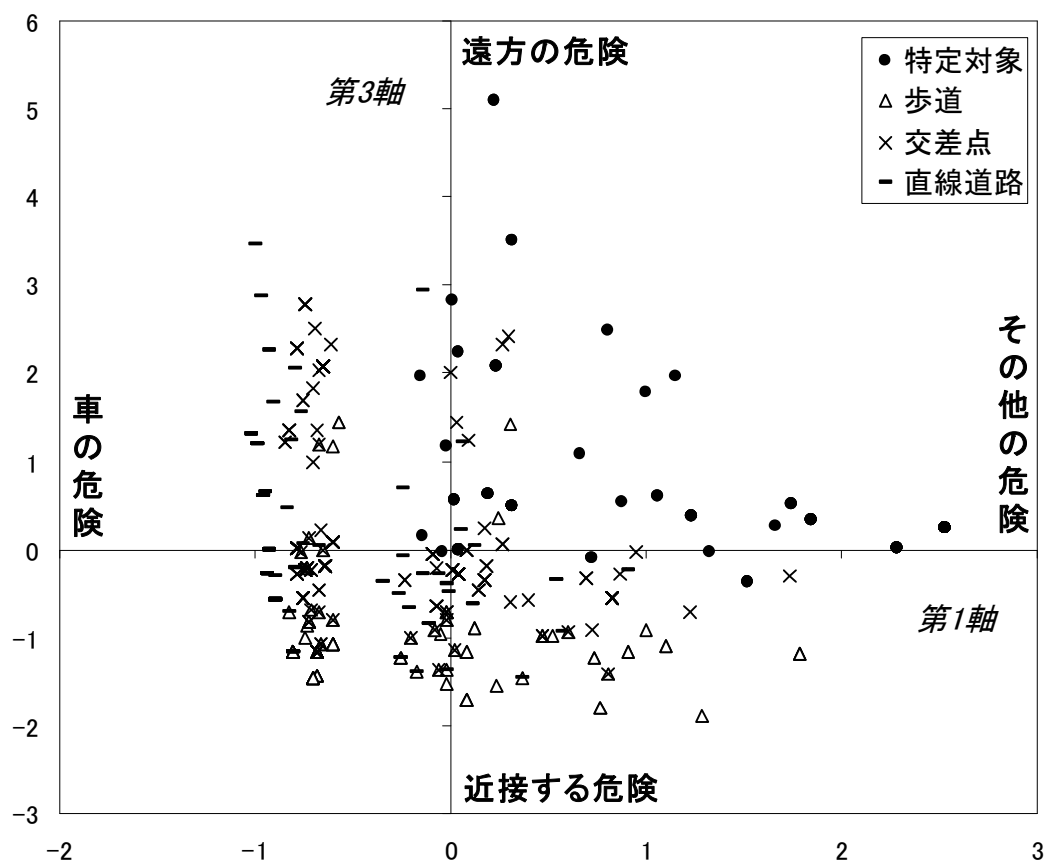


図 5-4 危ない道写真の散布図(第1軸×第3軸)

図 5-3、5-4 から危ない道の写真の傾向を以下に読み取った。

- 特定対象を撮影した写真は、『車の危険』軸においてその他の危険の方に偏りが見られた。『突発的危険』軸では継続的危険の方に偏りが見られた。『近接する危険』軸では遠方の危険の方に偏りが見られた。
- 歩道を撮影した写真は、『車の危険』軸と『突発的危険』軸において特に偏りは見られなかった。『近接する危険』軸では近接する危険の方に偏りが見られた。
- 交差点を撮影した写真は、『車の危険』軸と『近接する危険』軸において特に偏りは見られなかった。『突発的危険』軸では突発的危険の方に偏りが見られた。
- 直線道路を撮影した写真は、『車の危険』軸において車の危険の方に偏りが見られた。『突発的危険』軸では継続的危険の方に偏りが見られた。『近接する危険』軸では特に偏りは見られなかった。

このことから以下に考察をまとめた。

- 特定対象に対して危険を感じる場所では、車の危険よりその他の危険を認識している。また、そこでの危険は継続的危険であり、遠方から確認できる危険であると言える。
- 歩道での危険は近接する危険であると言える。
- 交差点では車の危険に限らずその他の危険も少なからず認識しており、どちらの危険でも突発的危険であると言える。
- 直線道路では車の危険を認識している。そこでの危険は継続的危険であると言える。

5-2-2 好きな道の分析

「3-4-2 写真集約データを用いた数量化Ⅲ類による写真、サンプルの分析」に従い、数量化Ⅲ類を用いて好きな道写真全 243 枚の分析を行った。なお、カテゴリーは、「主要素」(4 項目)、距離 (3 項目)、視線の高さ (3 項目)、コメント (その他のコメントを除く 7 項目)、の 17 カテゴリーとした。

数量化Ⅲ類結果の固有値、寄与率などを表 5-6 に示す。固有値が第 1 軸で 0.5 以上となる。累積寄与率が第 3 軸までで 40% 近くになることから、第 1 軸から第 3 軸までを採択した。

表 5-6 好きな道写真の数量化Ⅲ類結果の固有値、寄与率

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.5452	16.00%	16.00%	0.7384
第2軸	0.4507	13.23%	29.24%	0.6714
第3軸	0.3513	10.31%	39.55%	0.5927
第4軸	0.3190	9.36%	48.91%	0.5648

第1軸から第3軸までのカテゴリーウェイトは表5-7の通り。

表5-7 各因子軸のカテゴリーウェイト(好きな道写真)

カテゴリー	第1軸	カテゴリー	第2軸	カテゴリー	第3軸
景色	-1.4280	安全	-2.8614	仰観	-1.9009
景色・景観	-1.2768	建造物	-1.5561	景色	-1.4108
遠景	-1.2642	快適	-1.4563	安全	-0.8820
景観	-0.7457	建物	-1.1840	遠景	-0.8713
水平	-0.5445	遊び	-0.5794	景色・景観	-0.7274
建物	-0.5330	中景	-0.3794	建造物	-0.6605
仰観	-0.3976	水平	-0.2968	近景	-0.6031
中景	-0.1837	仰観	-0.2624	快適	-0.4416
安全	0.1612	景観	-0.2108	建物	-0.3504
植物	0.2439	近景	0.0871	俯瞰	-0.2328
遊び	0.3262	遠景	0.5962	動物	-0.0449
動物	0.4134	景色・景観	0.6888	特定対象	0.4885
建造物	0.7798	景色	0.8140	植物	0.6140
特定対象	1.1453	俯瞰	1.0497	中景	0.8460
快適	1.2538	植物	1.6231	水平	0.8495
近景	1.6769	動物	1.6824	景観	1.5055
俯瞰	1.9092	特定対象	2.0032	遊び	2.8277

第1軸では、負の項目に景色、景色・景観、遠景などの項目がある。景色や景観など拡がりを持った空間を遠景で広く対象としているため、負の項目は拡散と解釈した。正の項目に俯瞰、近景、快適、特定対象などの項目がある。特定の対象を近景で注目しているため、正の項目は集中と解釈した。なお、快適には日陰の涼しさなどが含まれ、俯瞰で近景の写真が多いと言える。つまり、快適というカテゴリーは軸の解釈に大きく影響しない。

よって第1軸は拡散か集中の軸である。これを『集中』軸と名付ける。

第2軸では、負の項目に安全、建造物、快適、建物などの項目があるため人工と解釈し、正の項目に特定対象、動物、植物などの項目があるため自然と解釈した。

よって第2軸は人工か自然の軸である。これを『自然』軸と名付ける。

第3軸では、負の項目に仰観、景色、遠景などの項目がある。遠くから眺めるように景色を対象としているため、負の項目は観察と解釈した。正の項目に遊び、景観などの項目がある。景観とは人工的なものを中心とした風景であり、公園なども含まれる。そのため、正の項目は遊びと解釈した。

よって第3軸は観察か遊びの軸である。これを『遊び』軸と名付ける。

各因子軸を表5-8のように解釈した。

表5-8 各因子軸の解釈(好きな道写真)

	第1軸	第2軸	第3軸
負の項目	拡散	人工	観察
正の項目	集中	自然	遊び
軸の名称	『集中』軸	『自然』軸	『遊び』軸

この第1軸から第3軸までの各因子軸をx軸、y軸に用いて、「主要素」別の好きな道の各写真を二次元平面上に表した散布図を図5-5、5-6に示した。

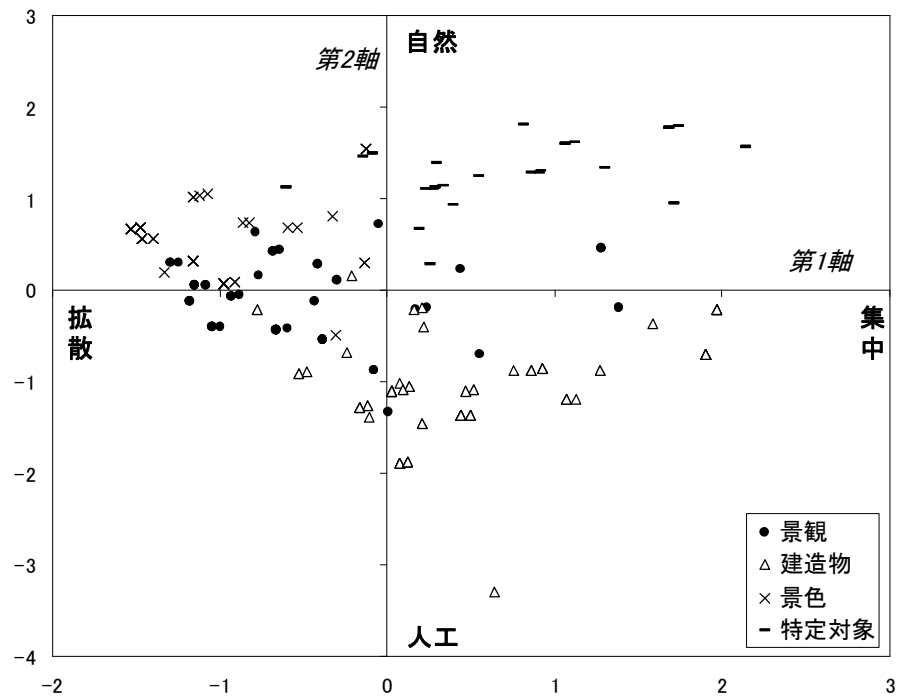


図 5-5 好きな道写真の散布図(第1軸×第2軸)

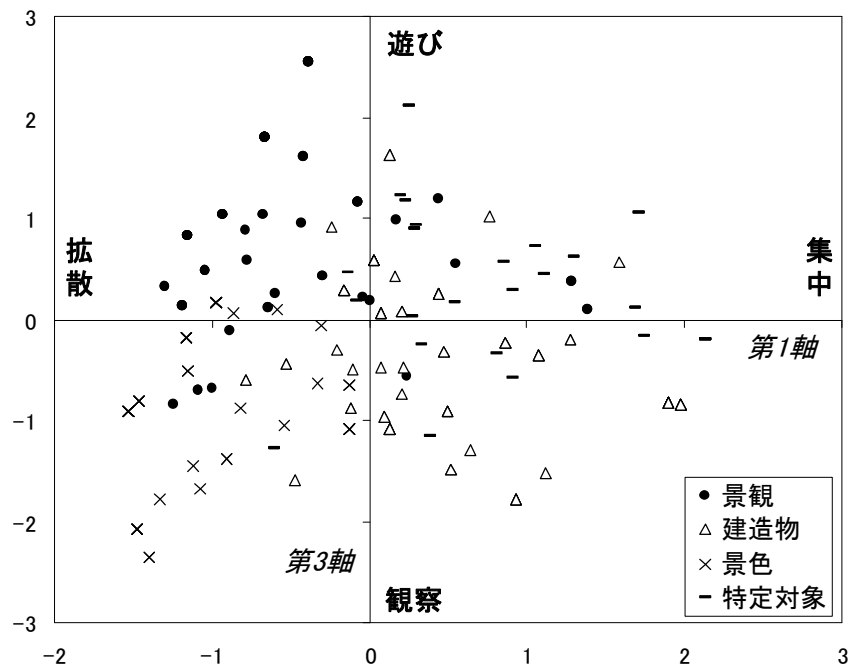


図 5-6 好きな道写真の散布図(第1軸×第3軸)

図 5-5、5-6 から好きな道の写真の傾向を以下に読み取った。

- 景観を撮影した写真は、『集中』軸において拡散の方に偏りが見られた。『遊び』軸では遊びの方に偏りが見られた。『自然』軸では特に偏りは見られなかった。
- 建造物を撮影した写真は、『集中』軸において集中の方に偏りが見られた。『自然』軸では人工の方に偏りが見られた。『遊び』軸では観察の方に偏りが見られた。
- 景色を撮影した写真は、『集中』軸において拡散の方に偏りが見られた。『自然』軸では自然の方に偏りが見られた。『遊び』軸では観察の方に偏りが見られた。
- 特定対象を撮影した写真は、『集中』軸において集中の方に偏りが見られた。『自然』軸では自然の方に偏りが見られた。『遊び』軸では遊びの方に偏りが見られた。

このことから以下に考察をまとめた。

- 景観に魅力を感じる場所では、空間を広く認識していると言える。また、対象に遊び体験を通して魅力を感じている。
- 建造物に魅力を感じる場所では、その人工物を中心とした空間を狭く認識していると言える。また、対象を観察することによって魅力を感じている。
- 景色に魅力を感じる場所では、自然的な空間を広く認識していると言える。また、対象を観察することによって魅力を感じている。
- 特定対象に魅力を感じる場所では、その自然物を中心とした空間を狭く認識していると言える。また、対象に遊び体験を通して魅力を感じている。

5-2-3 写真から見た危険性認識、好きな場所の認識のまとめ

危ない道の写真を通して得られた危険性認識の考察を以下にまとめる。

- 危ない道写真の潜在因子として、『車の危険』軸、『突発的危険』軸、『近接する危険』軸が抽出された。つまり、車の危険であるか、突発的な危険であるか、近接する危険であるかが危険を感じる時の重要な因子であると言える。
- 特定対象に対して危険を感じる場所では、車の危険よりその他の危険を認識している。また、そこでの危険は継続的危険であり、遠方から確認できる危険であると言える。
- 歩道での危険は近接する危険であると言える。
- 交差点では車の危険に限らずその他の危険も少なからず認識しており、どちらの危険でも突発的危険であると言える。
- 直線道路では車の危険を認識している。そこでの危険は継続的危険であると言える。

好きな道の写真を通して得られた好きな場所の認識の考察を以下にまとめる。

- 好きな道写真の潜在因子として、『集中』軸、『自然』軸、『遊び』軸が抽出された。つまり、集中して対象を捉えているか、自然物を対象として捉えているか、遊び体験を伴う場所を対象として捉えているかが道に魅力を感じる際の重要な因子であると言える。
- 景観に魅力を感じる場所では、空間を広く認識していると言える。また、対象に遊び体験を通して魅力を感じている。
- 建造物に魅力を感じる場所では、その人工物を中心とした空間を狭く認識していると言える。また、対象を観察することによって魅力を感じている。
- 景色に魅力を感じる場所では、自然的な空間を広く認識していると言える。また、対象を観察することによって魅力を感じている。
- 特定対象に魅力を感じる場所では、その自然物を中心とした空間を狭く認識していると言える。また、対象に遊び体験を通して魅力を感じている。

5-3 写真集約データを用いた撮影写真、サンプルの分析

5-3-1 写真集約危ない道撮影サンプルの分析

危ない道撮影サンプル 116 人が撮影した写真 524 枚を、異なるサンプル一人が一枚だけ撮影したもの、すなわち 524 人の危ない道撮影サンプルとして分析した。これを写真集約危ない道撮影サンプルと表現する。数量化Ⅲ類の結果については 5-2-1 危ない道の分析 の結果をそのまま用いる。その結果の各写真を (1) 性別、(2) 学校、(3) 通学距離、(4) 通学人数、(5) 通学手段 で分け、それぞれの傾向を見る。

(1) 性別による違い

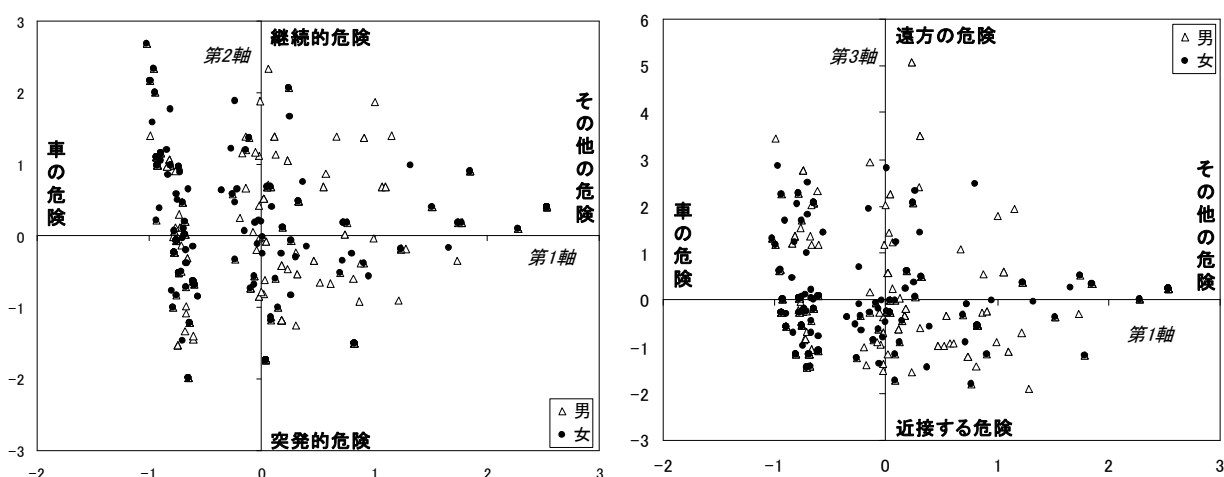


図 5-7 写真集約危ない道撮影サンプルの男女別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-7 より性別による違いは特に認められなかった。

(2) 学校による違い

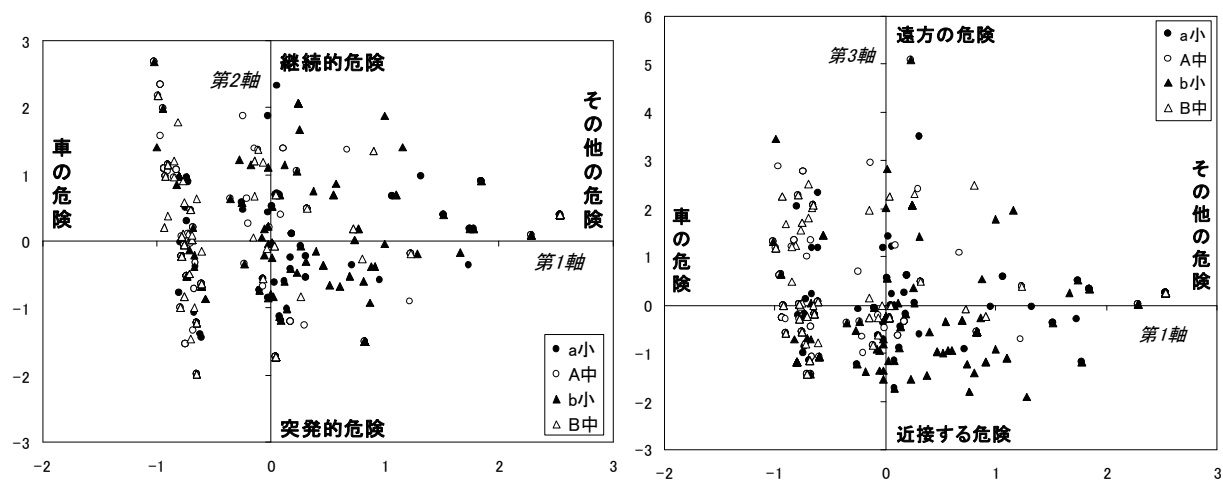


図 5-8 写真集約危ない道撮影サンプルの学校別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-8 より、A 中と B 中は『車の危険』軸において車の危険の方に偏りが見られた。また、b 小は『近接する危険』軸において近接する危険の方に偏りが見られた。

このことから、中学生はその他の危険より車の危険を強く認識していると言える。また、市街地の小学校では遠方の危険より近接する危険を強く認識していると言える。

(3) 通学距離による違い

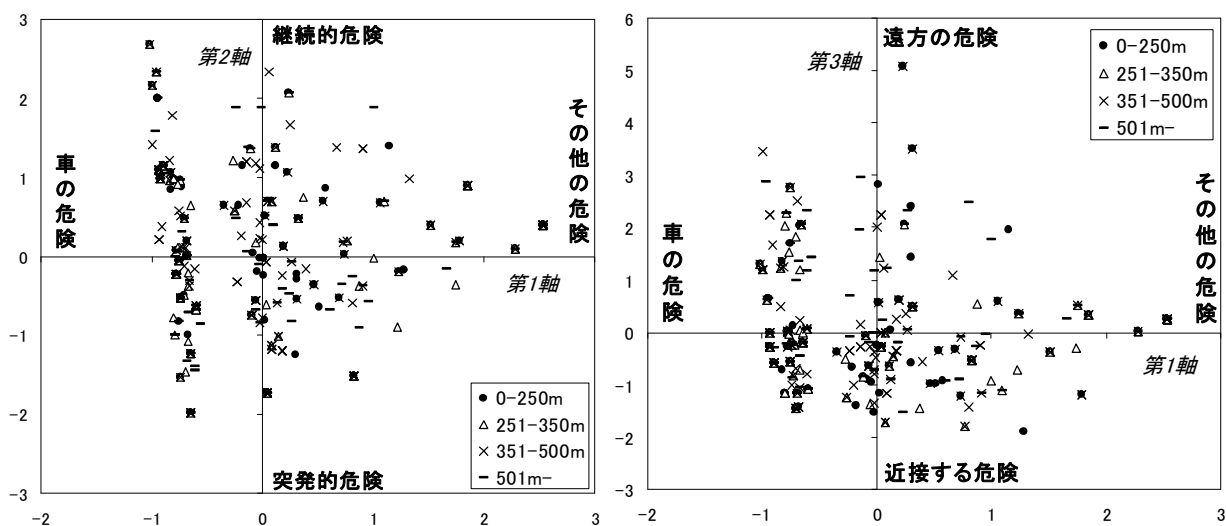


図 5-9 写真集約危ない道撮影サンプルの通学距離別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-9 より通学距離による違いは特に認められなかった。

(4) 通学人数による違い

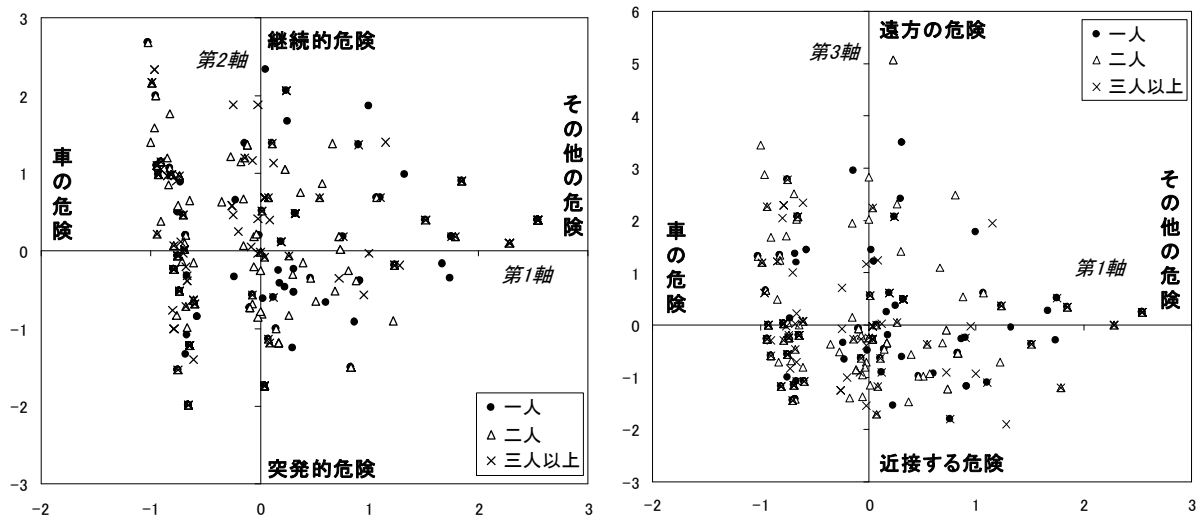


図 5-10 写真集約危ない道撮影サンプルの通学人数別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-10 より通学人数による違いは特に認められなかった。

(5) 通学手段による違い(中学校のサンプルのみ)

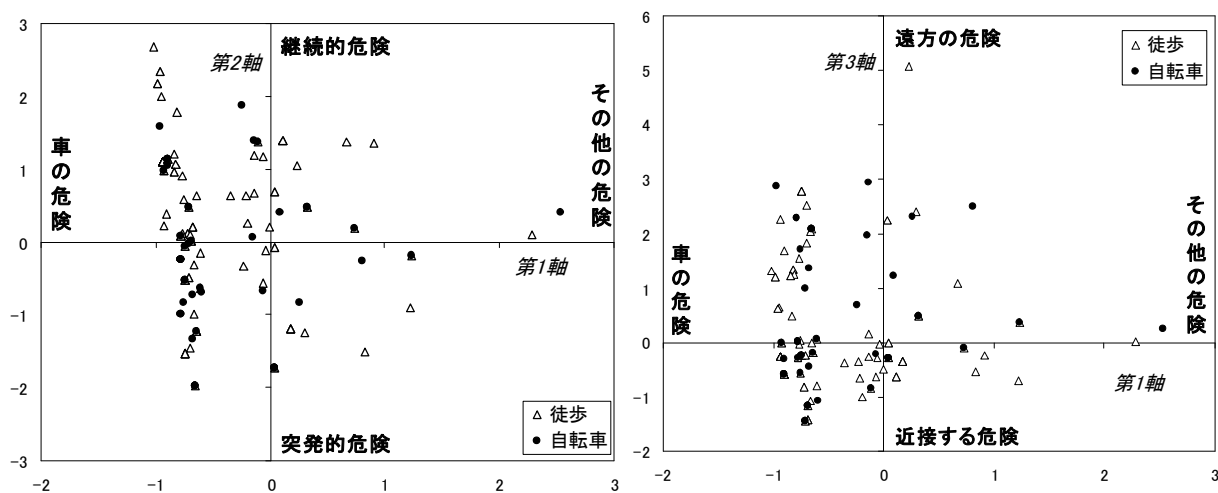


図 5-11 写真集約危ない道撮影サンプルの通学手段別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-11 より通学手段による違いは特に認められなかった。

5-3-2 写真集約危ない道撮影サンプルの類型化

各写真の第1軸から第3軸までのサンプルスコアをカテゴリーに用いてクラスター分析を行った。距離は平方ユークリッド距離、クラスター化の方法は Ward 法を用いた。その結果、写真集約危ない道撮影サンプルは四つのグループに分けられた。

グループ①は『突発的危険』軸で継続的危険に偏りが見られ、『車の危険』軸と『近接する危険』軸では偏りが見られなかった。よってグループ①を『継続的危険認知型』と名付けた。

グループ②は『車の危険』軸でその他の危険に偏りが見られ、『突発的危険』軸と『近接する危険』軸では偏りが見られなかった。よってグループ②を『その他の危険認知型』と名付けた。

グループ③は『車の危険』軸で車の危険に、『近接する危険』軸で遠方の危険に偏りが見られ、『突発的危険』軸では偏りが見られなかった。よってグループ③を『車の危険遠方認知型』と名付けた。

グループ④は『突発的危険』軸で突発的危険に偏りが見られ、『車の危険』軸と『近接する危険』軸では偏りが見られなかった。よってグループ④を『突発的危険認知型』と名付けた。

各グループの名称、サンプル数は表 5-9 の通り。

この名称とグループを散布図に表したものを図 5-12 に示す。

このように、写真集約危ない道撮影サンプルは、継続的危険認知型、その他の危険認知型、車の危険遠方認知型、突発的危険認知型の四つのタイプに分けられた。

表 5-9 写真集約危ない道撮影サンプルの
各グループの名称

グループ 番号	名称	サンプル 数	割合
①	継続的危険認知型	160	30.5%
②	その他の危険認知型	124	23.7%
③	車の危険遠方認知型	59	11.3%
④	突発的危険認知型	181	34.5%
計		524	100.0%

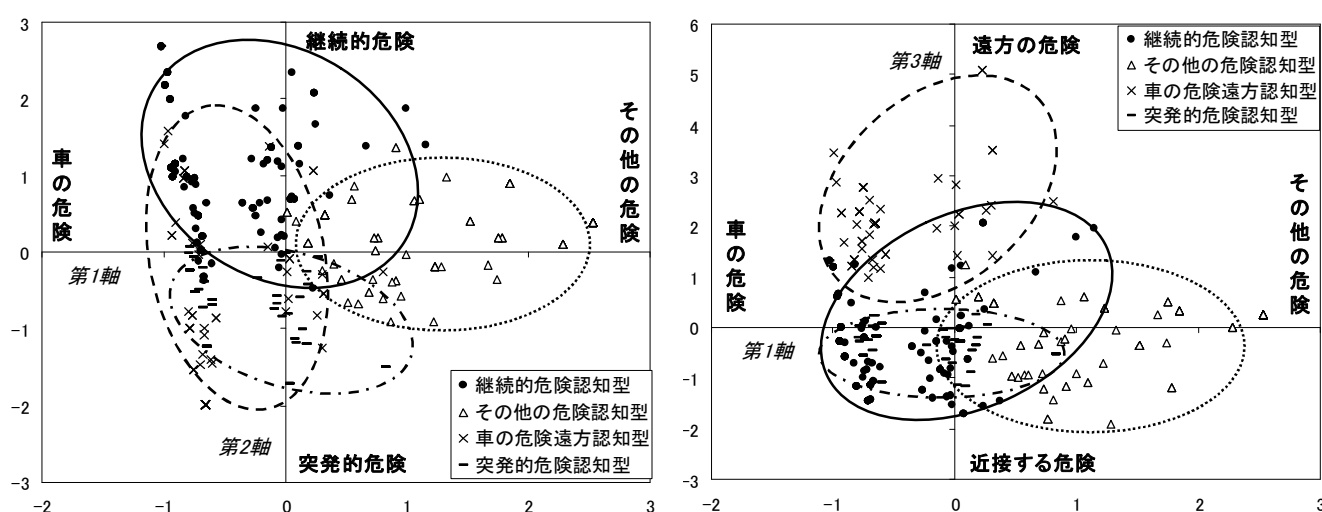


図 5-12 写真集約危ない道撮影サンプルの類型化後散布図(第1軸×第2軸、第1軸×第3軸)

5-3-3 写真集約好きな道撮影サンプルの分析

前述した写真集約危ない道撮影サンプルと同様に、好きな道撮影サンプル 66 人が撮影した写真 243 枚を、異なるサンプル一人が一枚だけ撮影したもの、すなわち 243 人の好きな道撮影サンプルとして分析した。数量化Ⅲ類の結果については「5-2-2 好きな道の分析」の結果を用いる。その結果の各写真を(1) 性別、(2) 学校、(3) 通学距離、(4) 通学人数、(5) 通学手段 で分け、それぞれの傾向を見る。

(1) 性別による違い

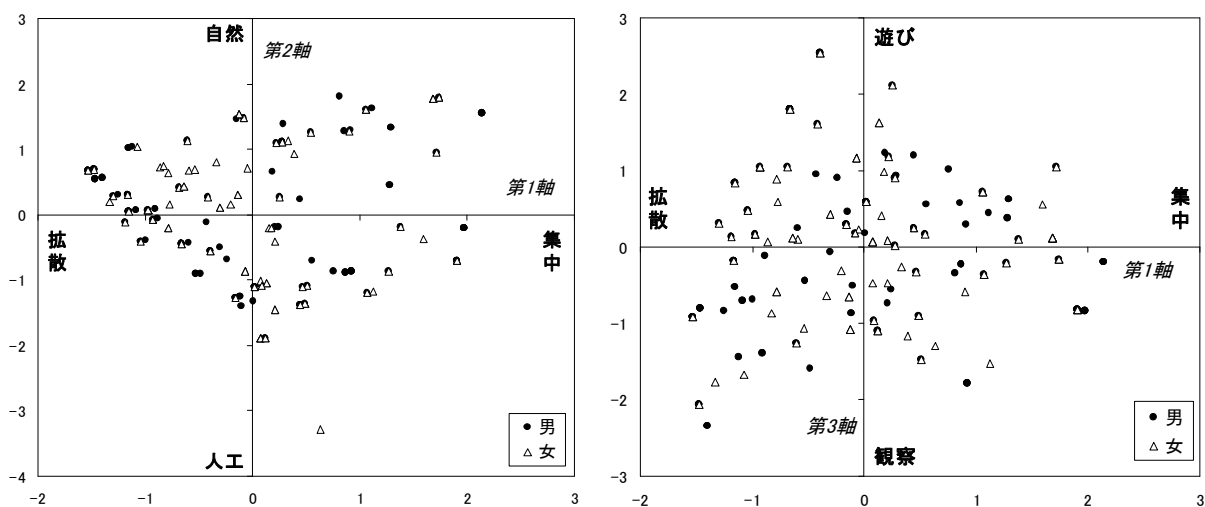


図 5-13 写真集約好きな道撮影サンプルの男女別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-13 より性別による違いは特に認められなかった。

(2) 学校による違い

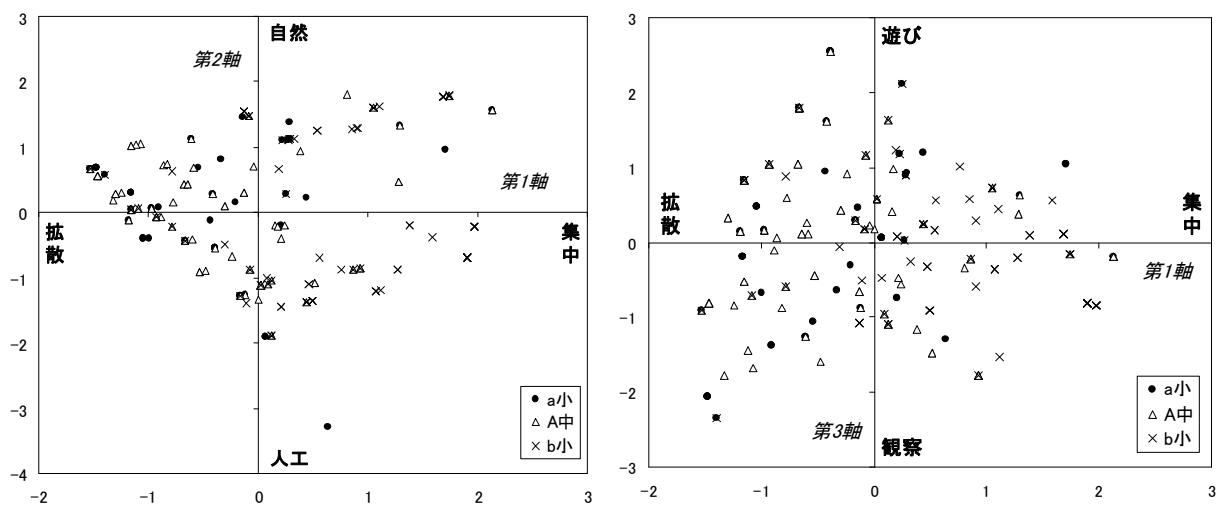


図 5-14 写真集約危ない道撮影サンプルの男女別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-14 より、a 小は『拡散』軸で拡散の方へ、『自然』軸で自然の方へ偏りが認められた。また、b 小では『拡散』軸で集中の方に偏りが認められ、A 中では『拡散』軸で拡散の方へ少しだけ偏りが認められた。

このことから、a 小のような郊外の学校では、自然的な空間を広く認識していると言える。B 小のような市街地の学校では、空間を構成する特定の要素を強く認識していると言える。

(3) 通学距離による違い

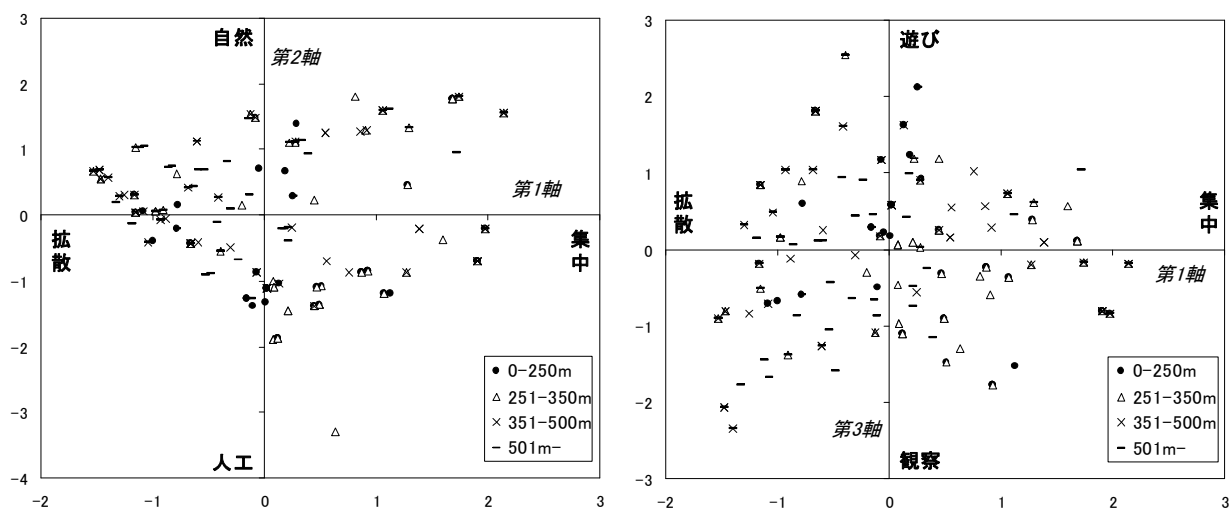


図 5-15 写真集約好きな道撮影サンプルの通学距離別散布図(第1軸×第2軸、第1軸×第3軸)

図 5-15 より、通学距離が 501m+ のサンプルは『拡散』軸の拡散の方へ偏っていた。それ以外、特徴的な傾向は認められなかった。

このことから、通学距離が長い子どもは空間を広く認識していると言える。

(4) 通学人数による違い

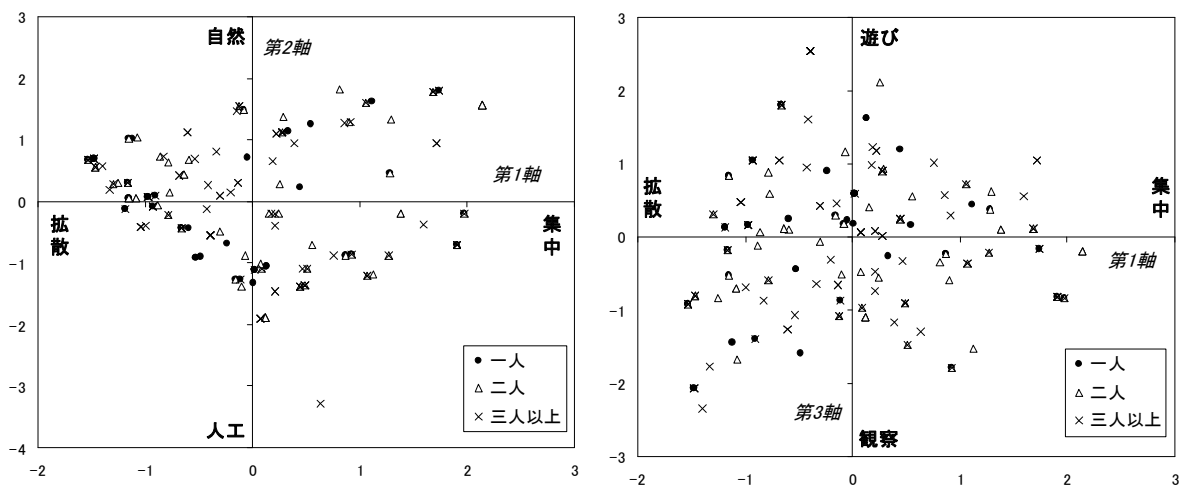


図 5-16 写真集約好きな道撮影サンプルの通学人数別散布図(第1軸×第2軸、第1軸×第3軸)

図 5-16 より通学人数による違いは特に認められなかった。

(5) 通学手段による違い(A 中のサンプルのみ)

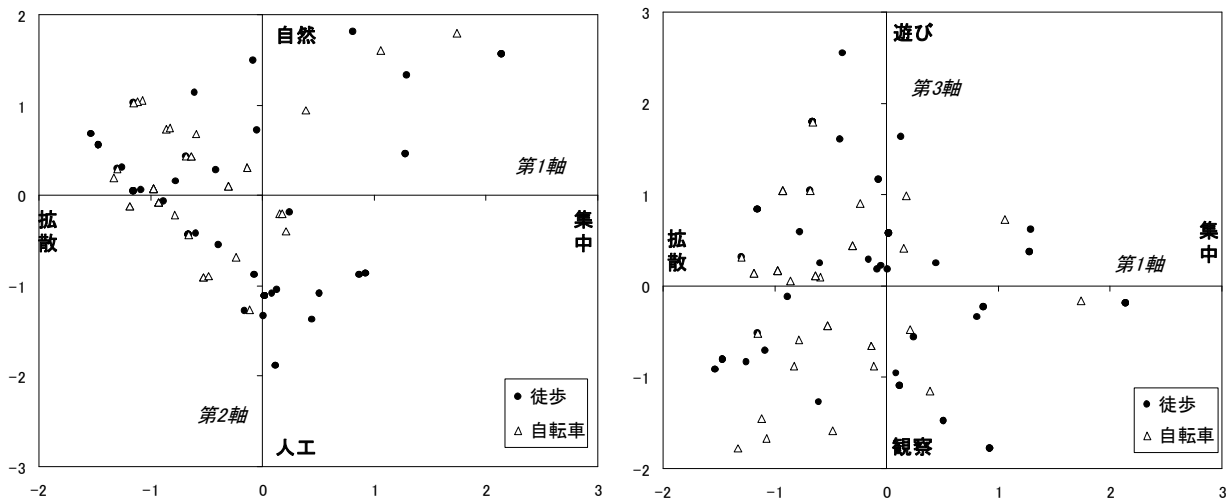


図 5-17 写真集約好きな道撮影サンプルの通学手段別散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

図 5-17 より、自転車で通学するサンプルは『拡散』軸で拡散の方へ偏っていた。それ以外の特徴的な傾向は認められなかった。

このことから、自転車で通学する中学生は空間を広く認識していると言える。

5-3-4 写真集約好きな道撮影サンプルの類型化

各写真の第 1 軸から第 3 軸までのサンプルスコアをカテゴリーに用いてクラスター分析を行った。距離は平方ユークリッド距離、クラスター化の方法は Ward 法を用いた。その結果、写真集約好きな道撮影サンプルは四つのグループに分けられた。

グループ①は『遊び』軸で遊びに、『集中』軸で拡散に偏りが見られ、『自然』軸には特に偏りは見られなかった。よってグループ①を『遊び場所型』と名付けた。

グループ②は『集中』軸で拡散に、『遊び』軸で観察に偏りが見られ、『自然』軸では偏りは見られなかった。よってグループ②を『景色嗜好型』と名付けた。

グループ③は『集中』軸で集中に、『自然』軸で自然に偏りが見られ、『遊び』軸ではやや遊びに偏りが見られた。よってグループ③を『特定自然

表 5-10 写真集約好きな道撮影サンプルの各グループの名称

グループ番号	名称	サンプル数	割合
①	遊び場所型	116	47.7%
②	景色嗜好型	41	16.9%
③	特定自然物嗜好型	35	14.4%
④	特定人工物嗜好型	51	21.0%
計		243	100.0%

物嗜好型』と名付けた。

グループ④は『集中』軸で集中に、『自然』軸で人工に偏りが見られ、『遊び』軸ではやや観察に偏りが見られた。よってグループ④を『特定人工物嗜好型』と名付けた。

各グループの名称、サンプル数は表 5-10 の通り。

この名称とグループを散布図に表したものを以下に示す。

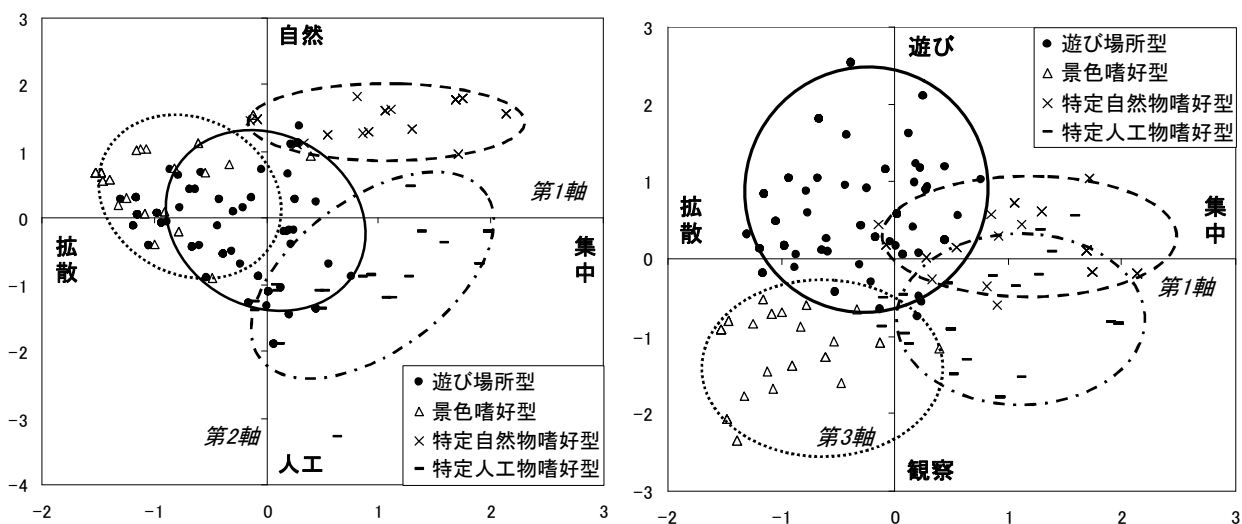


図 5-18 写真集約好きな道撮影サンプルの類型化後散布図(第 1 軸×第 2 軸、第 1 軸×第 3 軸)

このように、写真集約好きな道撮影サンプルは、遊び場所型、景色嗜好型、特定自然物嗜好型、特定人工物嗜好型の四つのタイプに分けられた。

5-3-5 写真集約データから見た危険性認識、好きな場所の認識のまとめ

危ない道の写真集約データを通して得られた危険性認識の考察を以下にまとめる。

- 中学生はその他の危険より車の危険を強く認識している。
- 市街地の小学校では遠方の危険より近接する危険を強く認識していると言える。
- 性別、通学距離、通学人数、通学手段による影響は特に認められなかった。
- 継続的危険認知型、その他の危険認知型、車の危険遠方認知型、突発的危険認知型の四つのタイプに分けられる。

好きな道の写真集約データを通して得られた危険性認識の考察を以下にまとめる。

- 郊外の学校では子どもは自然的な空間を広く認識しており、市街地の学校では空間を構成する特定の要素を強く認識している。
- 通学距離が長い子どもは空間を広く認識している。
- 自転車に通学する中学生は空間を広く認識している。

- 性別、通学人数による影響は特に認められなかった。
- 遊び場所型、景色嗜好型、特定自然物嗜好型、特定人工物嗜好型の四つのタイプに分けられる。

5-4 サンプルの類型化による分析

5-4-1 危ない道撮影サンプルの類型化

危ない道撮影サンプルを対象として、写真集約危ない道撮影サンプルの四つの撮影タイプにおける写真枚数をカテゴリーに用いてクラスター分析を行った。距離は平方ユークリッド距離、クラスター化の方法は Ward 法を用いた。その結果、危ない道撮影サンプルは四つに分けられた。このうち性質上他のグループに組み込むことができる小グループを、他の大グループにまとめて、三つのグループを得た。

グループ①は継続的危険認知型の枚数が多かったため、継続的危険認知タイプと名付けた。

グループ②は突発的危険認知型の枚数が多かったため、突発的危険認知タイプと名付けた。

グループ③はその他の危険認知型の枚数がやや多かったが、平均写真枚数が少なかったため、写真少数タイプと名付けた。

各グループの名称、サンプル数は表 5-11 の通り。

このように、危ない道撮影サンプルは、継続的危険認知タイプ、突発的危険認知タイプ、写真少数タイプの三つのタイプに分けられた。

表 5-11 危ない道撮影サンプルの各グループの名称

グループ番号	名称	平均写真枚数	サンプル数	割合
①	継続的危険認知タイプ	6.60	30	25.9%
②	突発的危険認知タイプ	6.84	25	21.6%
③	写真少数タイプ	2.52	61	52.6%
計		4.51	116	100.0%

5-4-2 特徴的な危ない道撮影サンプルの考察

「5-4-1 危ない道撮影サンプルの類型化」で得られた危ない道撮影サンプルの三つのグループの中から特徴的なサンプルを小学生と中学生の一人ずつ取り上げ個別に考察する。

なお、各サンプルの危ない道の写真のみを取り上げる。

各コメントの数字はコメントタイプと対応している。

- ①・・・交通量の多さに関するコメント
- ②・・・見通しの悪さに関するコメント
- ③・・・路面・路肩の状況に関するコメント
- ④・・・設備の整備に関するコメント
- ⑤・・・ルール・マナーに関するコメント
- ⑥・・・その他のコメント